

週間火山概況（平成 21 年 7 月 24 日 ～ 平成 21 年 7 月 30 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（7 月 24 日～7 月 30 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 7 月 30 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、 口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象 に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道 駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯 山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、 箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、 霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（7 月 30 日現在）

火山の概況は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あさまやま

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

山頂火口からの噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

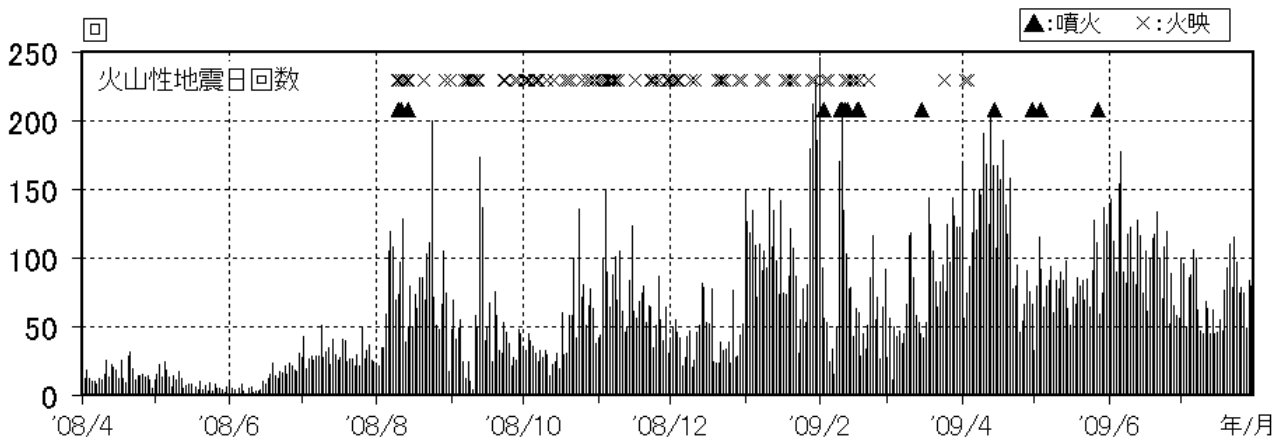


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2008年4月1日～2009年7月30日）

みやけじま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

30日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,300～1,900トン（前回7月15日、800～1,000トン）と依然として多い状態が続いている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

いあうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

27日に海上自衛隊の協力を得て行った上空からの観測及び現地調査では、前回の観測（2009年1月20～22日）と比べて、島内の噴気、地熱等の状況に大きな変化は認められなかった。また、島西部の阿蘇台陥没孔^{だいこんぼつこう}では、前回同様、熱水の水位は低い状態で、孔の中ではごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出が時々みられた。

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2009年5月中旬頃から隆起の傾向が鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくおかのば **福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]**

27日に海上自衛隊の協力を得て行った上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に火山活動に伴うものとみられる変色水が確認された。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま **桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]**

昭和火口では、爆発的噴火が5回発生した。24日04時14分の爆発的噴火では、大きな噴石¹⁾が5合目（昭和火口から500～800m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

桜島では、南岳山頂火口及び昭和火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石¹⁾及び火砕流に対する警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき²⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつまいおうじま **薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

島内に設置した遠望カメラでは、雲のため山頂部を確認できた時間は少なく、噴煙は観測できなかった。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

くちのえらぶじま **口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

しんだけ
新岳火口では、噴煙活動の高まった状態が続いており、島内に設置した遠望カメラでは、30日に火口縁上300mの噴煙を観測した。

火山性地震および火山性微動は少ない状態で推移している。

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降続いていた新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化が2009年2月以降鈍化し、6月以降は認められなくなっている。

口永良部島では、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

すれのせじま **諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

おたけ
御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒	
レベル4（避難準備）		または山麓厳重警戒	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険	
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険	
レベル1（平常）	噴火予報	平常	

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。